とうべつ歴史余話

第38回 開拓当初の移住費用

『新当別町史』編集担当　伊藤　哲也

当別の地を切り拓いた仙台藩・岩出山伊達家の伊達邦直（くになお）主従は、移住に当たってどのような金銭面での苦労をしたのでしょうか。そもそも移住の背景には、幕府方についた奥羽越列藩同盟（おうえつれっぱんどうめい）の盟主・仙台藩に対する、明治新政府による厳しい処分（大幅な家禄の削減）がありました。伊達邦直もその影響で、家禄を130俵にまで削減されてしまったのです。当時、邦直の家臣は736戸とされており、この石高では彼らを養うことは到底できない相談でした。単純計算すると、一戸に付き年間10kg程度の米でしかないのですから。

気候にせよ、土壌にせよ、ほとんど情報のない北海道への移住は、非常に難しい決断であったろうと思われますが、このような経済的苦境から脱出するための唯一の道に見えたのもうなずけます。

1871（明治4）年、第一次移住にかかった費用は、総額で9078円あまり。その翌年の第二次移住では、1万387円あまりとされています（『岩出山伊達家の北海道開拓移住―「吾妻家文書を読む」―』）。合計およそ2万円を費やしたと言っていいでしょう。一方、『當別村史』には「明治二年以来開拓のために消費したる私財ほとんど一万余円に及べり」とあり、邦直たちが移住のために個人的に負担したのは、その半分強だったのではないかと推測できます。

このように多額の私財を使わざるを得なかったのは、当初支配地とされた空知の「ナエイ」（現在の奈井江）をあきらめ、厚田郡聚富に入り、さらにそこから当別に転じるという「徒費徒労に属するもの多きによる」と、『當別村史』は記しています。しかし、このような財政的な窮状も、開拓使により3年間の扶助米を給付されることになり、「ここにおいて移民休養の途を得たり」（『當別村史』）ということになりました。

ところで1871年頃の1万円の価値は、どのようなものでしょうか。この年、開拓使が10年間で1000万円の予算を付けたことを考えると、開拓使予算1年分の100分の1という規模になります。他方、当時の米の値段を、1石（2.5俵）=7両と見込むという記録があります（伊達邦直が開拓使に申し込んだ「当別新道切開之届出書」）。1871年の貨幣制度改革で1両=1円としたことから、1石=7円とすると、1万円は1428石（約3570俵）分となり、減額された邦直の家禄の27年分程度になります。このことからも、邦直主従にとっての北海道移住は、失敗の許されない一生に一度の大事業だったことが理解できます。

伊達邦直公
（北海道大学附属図書館蔵）

活動を通して、地域貢献やより良い農業を！

当別町 4H クラブ会長

大坪 慶樹さん

当別町４Ｈクラブのメンバー

ここに書ききれないエピソードや写真は当別町ホームページ「現代を活きる＋」でご覧ください。

今回は、西当別地区にある「大坪牧場」で酪農業をしつつ、2022 年４月から４Ｈクラブの会長として活動する大坪慶樹さんに話をお聞きしました。

一番身近な職業

当別町出身で、牛が近くにいる環境で育ち、小さいころから親の農作業を手伝っていました。牧場を継ぐことを決意したのは、酪農学園大学への進学時。自分に一番身近な職業だったことが大きな要因で、その頃から本格的に牧場の手伝いを始めました。

現在、乳牛を 40 頭飼育しており、育成中や子牛ではない 20 頭から搾乳しています。搾乳量は１頭当たり１日平均 25kg から 40kg。出産したタイミングや体調によって量の増減があります。作業は、忙しいとき以外は朝の６時頃から始めて牛舎の掃除や餌やりなどの軽い作業を行い、朝と夕方に搾乳をしています。

夏の農作業は乳牛の管理の合間に行い、収穫した作物や野菜は JA 北いしかりや道の駅などに卸しています。

４Ｈクラブとは

４Ｈクラブは、20 代から 30 代の若い農業者が中心となって組織され、身近な課題の解決や、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動を行っています。

当別町では、農業従事者や農協職員、農業法人で働く人の合計 17 人で活動しています。

４Ｈクラブでの活動

2023 年度の活動の中で、花卉・さつまいも・ブロッコリーを題材にメンバーを３つのグループに分けて、勉強会を開催しました。その後、「いしかりアグリフォーラム 2023」にて、グループで取り組んだ地域活動や技術改善の成果を披露する「プロジェクト発表」で、花卉のグループが優秀賞を受賞。今年の１月末に行われる北海道大会への進出を決めました。

そのほか、札幌の地下歩行空間での野菜や花卉の直売、阿蘇公園で行われるビアパーティで、調理した野菜の販売などを行っています。また、天使大学のサークルとの交流では、野菜の収穫体験を企画し、収穫したさつまいもをスイートポテト、かぼちゃはチーズケーキにするといった加工にも挑戦しました。

今後の目標は

会長として、新型コロナウイルス流行前の事業を洗い出し、すべての事業を行いましたが、メンバーが年々減少し、事業を行うのが困難になっているのが現状です。その現状を変え、活動の幅を広げるためにもメンバーを増やす必要があると感じました。今年の３月末には任期を終えますが、その後は相談役として、４Ｈクラブに関わりたいと考えています。町内の方で活動に興味がある方は、ぜひ、参加をお待ちしております。

今後の目標は、安心・安全な作物を栽培するとともに、自宅前に直売所を開き、直接消費者に届けたいと思っています。

また、子どもが認定こども園に通っており、今年、田植えと稲を収穫するための場所を園に提供する予定です。このような活動を通して、園児たちに食育を学んでもらいたいとも考えています。